医療連携
つつじ
創刊号
平成14年7月1日

発行 社会保険中央総合病院
新宿区百人町3－22－1
http://www.shahochu.com/

医療連携室TEL & FAX 03－3364－0366

「つつじ」の発刊によせて

社会保険中央総合病院
院長 斎藤 寿一

新宿、中野そして杉並区の医師会の先生方には日頃、社会保険中央総合病院に対し種々お力添え下さり大変に有難う存じます。お陰様で当院も開院以来半世紀を越えて、東京北西部の一隅で着実な歩みを続けております。しかしながら患者やご家族の方々のニードは日々多様化しており、医療も複雑、高度化したこの時代を生きぬくには，地域の先生方と私共の病院との診病連携が一層求められていると考えております。この様な背景を踏まえて地域医療連携のための通信誌「つつじ」を発刊することといたしました。

当院の地域医療連携活動はまだ緒についたばかりです。まず、私どもは地域医療を支えて居られる先生方の医療機関の円滑なご活動とご発展のために、当院が担える役割は何かを考えてまいります。そしてそれを達成するための手順を当院に整えたいと存じます。当院は、主要な診療部門を備え，二次救急とも積極的に取り組みつつ、外来、入院とも軽症、重症を問わず先生方からの患者さまをお待ちしております。また放射線機器をはじめとする各種の検査や医療相談など包括的な地域医療のお役に立つ開かれた病院としての機能を今後一層充実させてまいります。患者さまの診療を軸として先生方の医療機関と当院が緊密につながり、患者さまの流れとしての円滑なループを完結させたいと考えております。

本年の5月からは1週間の糖尿病教育入院を開始いたしました。このコースでは日頃、糖尿病の患者教育や血糖コントロールにお骨折りの先生方から患者さまをおあずかりし、1週間の教育入院が終了した時点でご紹介の先生方へと患者さまにお戻りいただく診療バックアップ システムとなっております。

この「つつじ」の紙面を通じて先生方には当院のこの様な現況を随時お届けし、また先生方からも当院についての忌憚のないご意見をこの紙面にお寄せ頂いて、地域医療連携の絆を強めることができればと願っております。何卒、よろしくお願い申しあげます。

診療科紹介

大腸肛門病センター

大腸肛門病センター長
岩垂　純一

大腸肛門病センター（通称肛門科）の始まりは昭和35年に遡ります。当時外科に在籍していた隅越幸男前センター長の発案でした。新宿区は3つの大学病院、1つの国立病院、1つの都立病院などがあり、当院は、これらの大病院に囲まれているので、何か特徴をもたせないと生き抜いて行けないと考え、ありふれた病気ではありますが数の多い肛門疾患を中心に扱うセンターを、外科部門に設けることにしたのがその最初です。以来、日々の診療のレベルアップはもちろん、積極的に学会活動にも参加し主導的立場を維持する一方、メディアからの好意的なとりあげも幾度となく行われました。42年目を迎えた今日、保険診療範囲内での大腸肛門疾患診療は国内国外を通じトップレベルを維持できていると自負しております。

現在、常勤医7名、レジデント4名の11名（内女医1名）ですが、大学医局の関連病院として派遣されてきたスタッフは一人もいなく、個人の意志として大腸肛門病学を学ぼうとして入局してきた中堅以上の医師ばかりです。したがって出身大学や医局は皆異なっており、現在の肛門科スタッフ11人をみても異なる10の出身大学からの集合体であり、学閥を越えて一致団結した集団です。

診療内容は2001年を例にとりますと、新患外来数6665例、肛門疾患手術2017例、大腸癌手術170例、炎症性腸疾患手術125例、全大腸内視鏡2813例、内視鏡的ポリープ切除例数（EMRを含む）750例、注腸造影検査981例、排便造影や直腸肛門内圧などの機能検査456例となっております。クリニカルパス導入による入院診療の合理化と1日あたりの手術可能件数のアップにより、手術申し込みからのベッド待ちも以前よりかなり短縮し、肛門疾患で2ヶ月以内、開腹手術で1ヶ月以内となっております。もちろん緊急を要する場合には適宜対応しております。また検査部門での待ち時間は、注腸造影検査で1週間、大腸内視鏡は1ヶ月ですが，状況によっては受診当日の緊急検査も行っております。

先生方の健診において近年すっかり定着した便潜血検査ですが、反応陽性者の精密検査への移行率がまだ低いと聞いております。これらについても是非ご紹介いただき、苦痛のない迅速な直腸、大腸検査を提供することでお答えして行きたいと思います。

受診数の関係で外来診療ではまだ予約制は導入しておりませんが、待ち時間の短縮のためご紹介患者においては可能な限り優先的に診察しております。月曜日・木曜日は午後外来を設けており、比較的待ち時間の少ない外来となっておりますので、ご紹介の際ご考慮頂けたらよろしいかと存じます。「社保中の肛門科」としてこれからも宜しくお願い申し上げます。